

佐和、3回戦進出

春季関東高校野球

県大会

第78回春季関東高校野球大会第2日は19日、

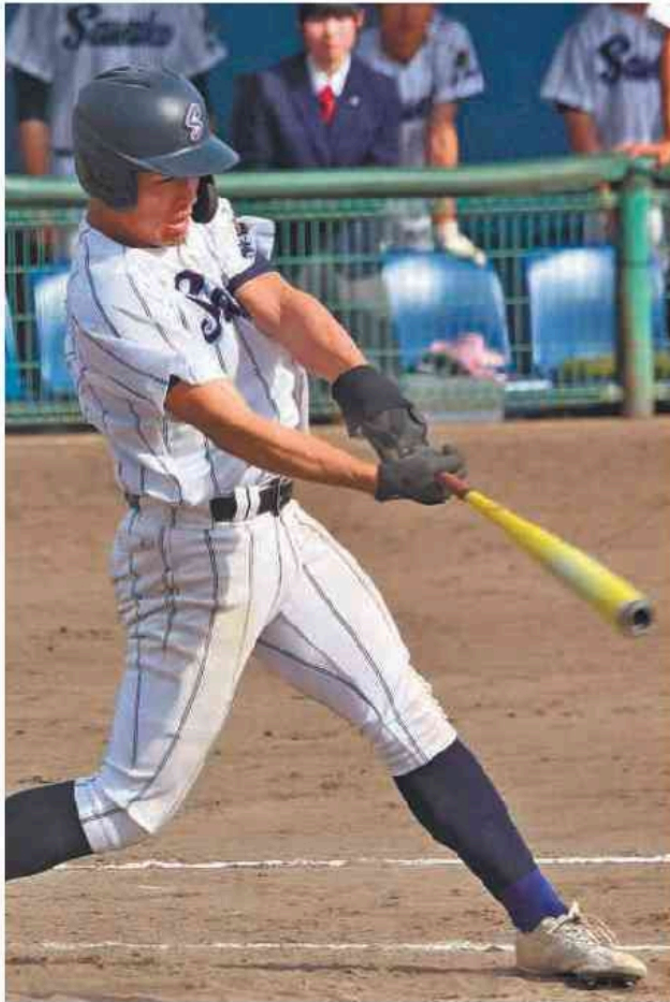
等間市民球場などで2回戦4試合が行われ、佐和が鹿島に6-2で逆転勝ちし、3回戦に駒を進めた。3年連続での対戦となった水城と明秀日立の一戦は、序盤からリードを奪った水城に軍配が上がった。

霞ヶ浦は日立一に五回コールド勝ち。境は2投

きのこの勝敗

▽2回戦

霞ヶ浦	10-0	日立一
境	3-0	茨城キリスト
水城	6-5	明秀日立
佐和	6-2	鹿島



佐和 6-2 鹿島

【評】佐和が逆転勝ち

手の継投で茨城キリストを3-0で退けた。第3日は20日、3球場で2回戦6試合が行われる。

八回に逆転

1-1で迎えた五回に適時打で勝ち越しを許したが、八回、1死一塁から松田の適時三塁打

エース松田、投打で躍動

①：逆転勝ちの佐和は4番でエースの松田侑大（3年）が投打に活躍し、

勝利を呼び込んだ。1点を追う八回表1死一塁、「来た球を振ろう」

で同点。さらに、次打者策が絡んだ失点が痛かった。での暴投の間に松田が生還し、試合をひっくり返した。九回には千賀の2点適時三塁打などで3点を追加した。鹿島は踏ん張り切れなかった。終盤の暴投や失

練習の成果出したい 佐和・大田誠監督(47) 次の試合でも冬場に取り組んできた練習の成果を出したい。

が残せず、スタメンから外された時もあった。それでも腐ることなく、打撃と投球フォームの改良などを重ね、懸命の努力で本来の姿を取り戻した。 投打の柱は「指導してくれた人たちに結果で恩返しできた」と安堵し、次戦も「チームに貢献する」と見据えた。

とフルスイングした打球は左中間へ。同点となる適時三塁打となり、塁上で笑顔があふれた。 その裏、粘投を続けてきた先発の佐藤翔空(2年)からマウンドを託され、「バックを信じてストライク先行で投げた」。力強い直球を軸に八、九回を完璧に抑えた。 昨秋は思うような結果

佐和-鹿島 8回表佐和 1死一塁、松田が左中間に同点打を放つ 〓 笠間市民